

大切な農作物は 集落みんなの協力による捕獲で

鳥獣から守りましょう！ ～捕獲班の取組について～



狩猟者の方

+
(連携)



集落の皆さま

この連携には
かなわないよー！



はじめに

県内の野生鳥獣による農作物被害金額は、[1億7千万円\(H28\)](#)にものぼって

おり、その内の6割は[イノシシ](#)  によるものです。

イノシシの被害対策の1つとして、捕獲対策が考えられます。集落の皆さまにおかれては、これまでは、[集落外の狩猟者に頼る](#)ことが多かったかもしれません。しかしながら、[狩猟者の減少や高齢化](#)が進み、また、[イノイシを箱わなで捕獲するのはとても重労働](#)であるため、[捕獲に取り組んでもらえない集落\(被害農地\)も出てきています](#)。

このため、今後の捕獲対策については、[集落の皆さまご自身が積極的に取り組んでいく](#)必要性が、非常に高まってきています。

そこで、1つのご提案ですが、捕獲対策を狩猟者のみに頼るのではなく、[集落の皆さまも協力し、地域一体となって](#)取り組まれてはいかがでしょうか。

- ・ [集落外の狩猟者を、集落の皆さまでサポートする。](#)
- ・ [集落の皆さまのどなたかが新規に狩猟免許を取得し、その方を集落みんな](#)
[でサポートする。](#)

「よし、ぜひ考えてみよう。」と思われた皆さまは、次ページ以降をご覧ください。[皆さまの今後の取組について、ご参考となることがある](#)と思われまますので。



イノシシを箱わなで捕獲するのは、とても重労働です！

まずはじめに、イノシシを箱わなで捕獲すること（所要時間、難易度など）について、どのように思われていますか？

「結構簡単に捕獲できるんじゃないの!？」と思われる方も多かもしれません。

ここで、イノシシを箱わなで捕獲する場合の主な作業をご説明します。下記のステップ ~ のようになります。

【ステップ】・・・イノシシの通り道の特定

イノシシが頻繁に通っていきそうな道（獣道）を探し出します。

箱わなは、獣道の付近など、イノシシが捕獲できそうな場所に設置しなくてはなりません。



足跡



通り道

【ステップ 】・・・箱わなの運搬・設置

イノシシ捕獲用の箱わなは、いろいろなサイズがありますが、一般的に、**大きくて重たい**です。

下の写真をご覧ください。**大人の男性が楽々と入れる大きさ**です。

このような箱わなを、山中などへ運搬し、なおかつ、設置しなくてはなりません。

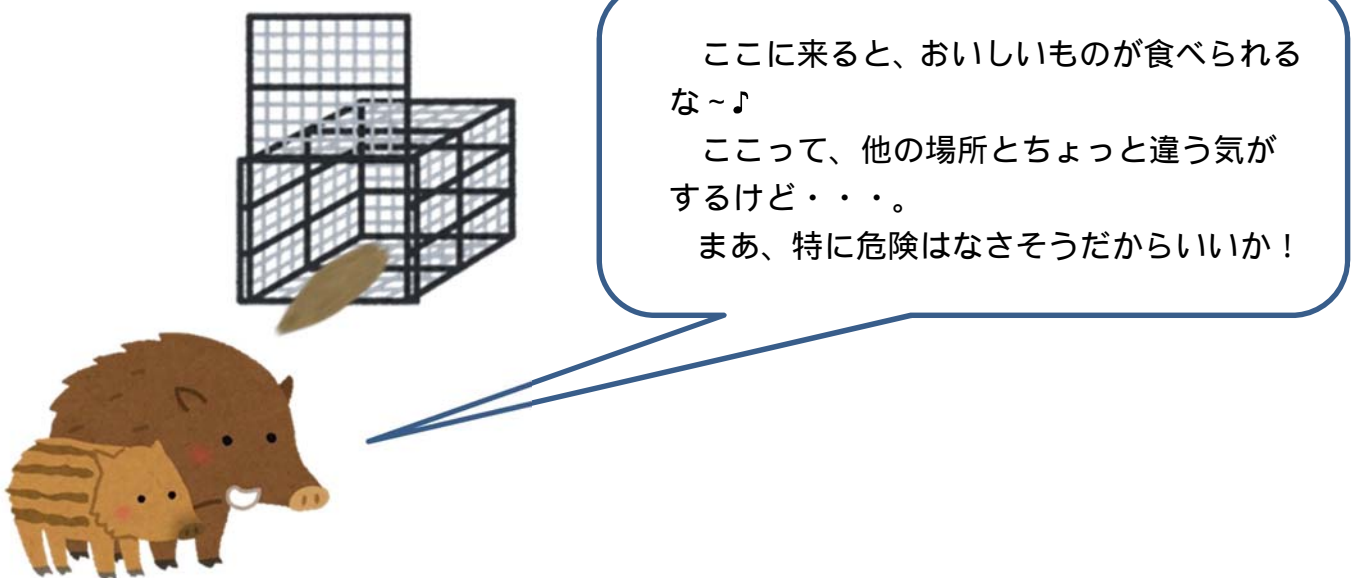


ちなみに、この写真は、当県で開催された「狩猟の魅力まるわかりフォーラム(H29.10.15 開催)」において、箱わなの仕掛け等を来場者に説明するために、安全に特に注意して行ったものです。決して、悪ふざけしているものではありませんので。ちなみに、皆さまは、絶対に真似しないようにしてください。

【ステップ】・・・餌付け

いきなり、わなの仕掛けを組んで、扉が閉まるようにはしません。まずは、イノシシに、「ここに来ると餌を食べることができる」「この箱の中に入って餌を食べても安全」と学習させなければなりません。

この餌付けをするために、餌まき・見回り等を、ほぼ毎日行わなければなりません。



【ステップ】・・・仕掛けを組む・捕獲

イノシシの餌付けがうまくいっていることを確認してから、ようやく、わなの仕掛けを組みます。

餌付けがうまくいっていれば、捕獲できる可能性が高いです。



【ステップ 】・・・止め刺し

捕獲したら、イノシシにとどめをささなければなりません。イノシシは暴れて抵抗しますので、**安全に注意**しなければなりません。

銃器等が使用される場合もあり、最近では、電気止めさし器も使用されています。

【ステップ 】・・・箱わなの撤去・運搬

箱わなを撤去し、別の捕獲場所へ運搬します。

(撤去せずに、同じ場所で捕獲を行う場合もあります。)



このように、**とても重労働**であることが、お分かりになると思います。

狩猟者の方って、ほとんど一人でこれらの作業を行われているのですから、
どれだけ大変であるか・・・。想像に難くないですね。

さらに、イノシシについて、狩猟者の方からは下記のような意見を聞きます。

野生で生きているので、イノシシって賢いですね！



イノシシは、思った以上に学習能力が高い。

- ・箱わなを引っ繰り返して餌を食べる。
- ・くくりわなに気づいたら、近くに目印を付ける。
- ・親イノシシは、子供を先に行かせて、危険を探る。

このため、捕獲は、常にイノシシとの知恵比べだよ。

そうそう、簡単には捕まらないよ。



狩猟者だけでは、イノシシの捕獲数を増やすことが 難しいです！

では、ここで、ある集落において、狩猟者一人がイノシシを捕獲している
場合を考えてみてください。

集落の皆さんが、イノシシをもっと捕獲してほしいと思っても、

集落の皆さん



こっちの農地も、あっちの農地も、イノシシにや
られている。
箱わなを増やして、イノシシをもっと捕獲してほし
い！

狩猟者



いやいや、自分一人では、箱わなをこれ以上増やし
ても、見回りなどの作業が到底できない。
増やすのは、絶対に無理！

ということになってしまいます・・・。

この結果、イノシシによる被害がさらに増えてしまうかもしれません。

集落の皆さままで協力してイノシシを捕獲しましょう！

イノシシの捕獲は重労働ですので、狩猟者一人に頼らず、集落の皆さまが捕獲者の作業を補助し、皆さままで協力してイノシシを捕獲しましょう！

【重要ポイント】

法律では、狩猟免許を持たない方は、捕獲に関する作業はもちろんのこと、狩猟者の作業補助についても一切行うことができません。

しかしながら、佐賀県では、「第11次鳥獣保護管理事業計画(H24年4月～H29年3月)」において、狩猟免許を持たない方であっても、狩猟免許所持者と協力して銃器を使用しない捕獲体制をつくることで、狩猟免許所持者の作業補助ができるように認めました。

(この制度は、現在の「第12次鳥獣保護管理事業計画(H29年4月～H34年3月)」においても、継続して認めています。)

狩猟者(狩猟免許所持者)と集落のみなさん(狩猟免許を持たない方)が協力する捕獲体制を、“捕獲班”と呼びます。

“捕獲班”がどのようなものであるかは、次ページのイメージ図をご覧ください。

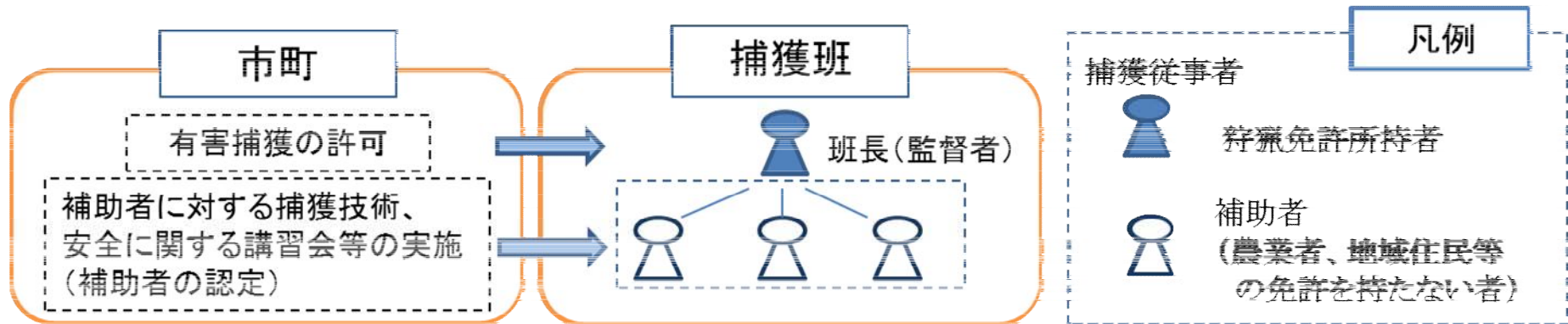
捕獲班のイメージ

捕獲班とは...

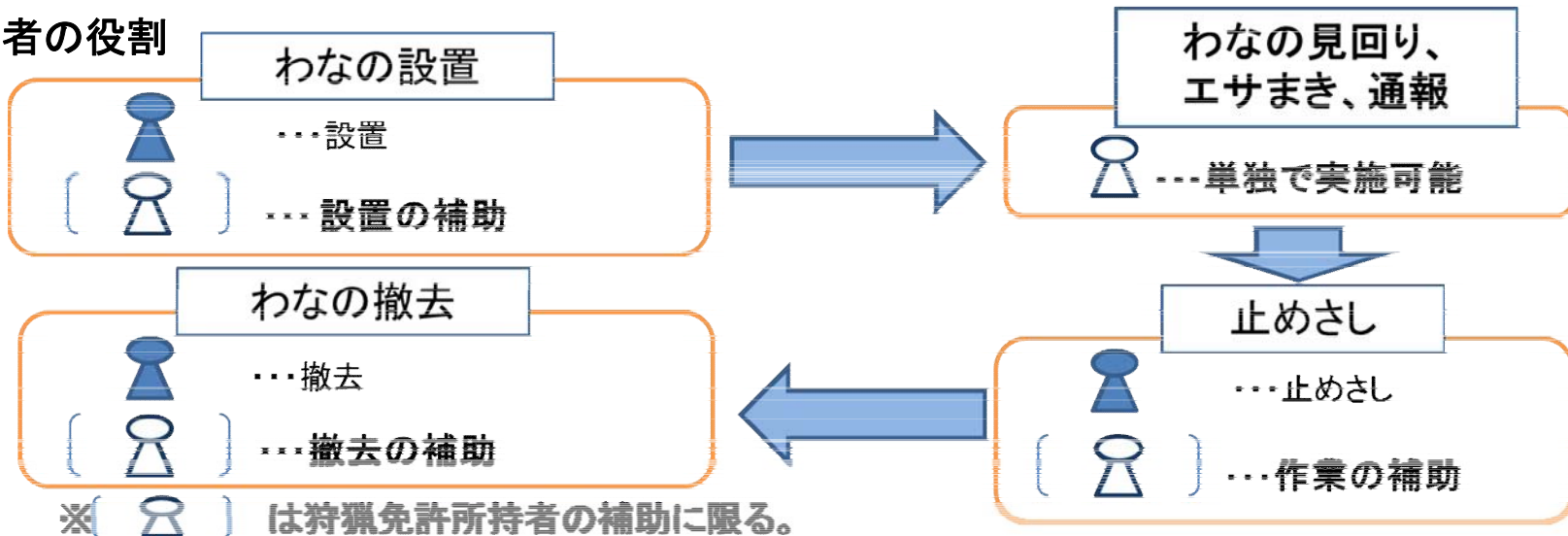
狩猟免許所持者(班長)と免許を持たない地域住民等(補助者)が協力して捕獲を行う組織

仕組み：銃器を使用しない捕獲方法(わな等)で、狩猟免許所持者の指示・監督のもと、免許を持たない者が、「見回りやわなのエサまき」等の活動を補助するもの

1. 実施体制



2. 補助者の役割



“捕獲班”の取組にも、注意していただくことがあります。

“捕獲班”の取組については、下記に留意してください。

【留意点】

事前に、狩猟免許所持者と補助者の役割分担を決めておいてください。

(捕獲したイノシシについては、捕獲報償金の対象となることも考えられますので、狩猟免許所持者と補助者の捕獲報償金の配分等についても決めておいてください。)

補助者となる方は、取組を始める前に、市町等が開催する捕獲に関する講習会を受講し、捕獲技術や安全性等を確保してください。

補助者の方は、狩猟免許所持者の直接の指示の下において、捕獲作業の補助を行ってください。なお、補助者の方でも、「わなの見回り」「エサまき」「通報」については、補助者単独で行うことができます。

捕獲班の取組は、狩猟免許を持っていない補助者の方が自由にイノシシを捕獲できるものではありません。ご注意ください。

“捕獲班”により、地域一体、かつ地域の実情に合わせた捕獲対策に取り組まれています。

“捕獲班”には、現在、6市4町において、21班が取り組まれています。

そのうちの14班は、H29年度からの新規であり、各地域の実情に沿って

取り組まれています。

年度	班数	市町	地域・集落	設置年月	体制
平成29年度以前		唐津市 (鎮西町)	イシムロ 石室	H25年4月	23名(免許所持者2名、補助者21名)
		唐津市 (厳木町)	ウラガフチ 浦川内	H25年4月	5名(免許所持者1名、補助者4名)
		唐津市	湊・中里・横野	H26年4月	19名(免許所持者3名、補助者16名)
		唐津市	屋形石	H27年4月	7名(免許所持者1名、補助者6名)
		神崎市	城原	H28年5月	32名(免許所持者5名、補助者27名)
			久保山	H28年11月	4名(免許所持者1名、補助者3名)
			頭野	H28年11月	4名(免許所持者2名、補助者2名)
2市・7地域(7班)					
平成29年度		神崎市	広滝東	H29.5月	5名(免許所持者1名、補助者4名)
			政所	H29.5月	3名(免許所持者1名、補助者2名)
			服巻	H29.5月	5名(免許所持者1名、補助者4名)
		佐賀市 (富士町)	チヤノキ 菅木	H29.6月	5名(免許所持者3名、補助者2名)
		唐津市 (呼子町)	呼子	H29.6月	5名(免許所持者4名、補助者1名)
		江北町	岳	H29.8月	6名(免許所持者2名、補助者4名)
		鹿島市	久保山	H29年9月	3名(免許所持者1名、補助者2名)
		嬉野市	南上	H29年9月	5名(免許所持者1名、補助者4名)
		伊万里市	中田	H29年9月	3名(免許所持者1名、補助者2名)
		有田町	岳	H29年10月	4名(免許所持者1名、補助者3名)
		大町町	町全域	H29年10月	4名(免許所持者1名、補助者3名)
		神崎市	鳥羽院下	H29年11月	5名(免許所持者1名、補助者4名)
		吉野ヶ里町	坂本	H29年11月	4名(免許所持者1名、補助者3名)
		神崎市	東鹿路	H30年2月	5名(免許所持者2名、補助者3名)
	5市4町・14地域(14班)				
計	6市4町・21地域(21班)				

ここで、江北町の岳地区の取組についてご紹介します。ぜひ、当地区の取組をご参考ください。

【岳地区の取組事例】

以前、当地区には狩猟免許所持者がいなかったこともあり、被害対策（イノシシの捕獲）については、地区外の狩猟者に頼っていました。

そのような中、捕獲班の取組を知ったことで、「地区一体となり、自分達の集落は自分達で守ろう」といった意識へと変わりました。

このため、地区の2名の方がH29年1月に、新規にわな猟免許を取得され、その狩猟免許所持者2名と、集落の方4名により捕獲班をつくり、H29年8月から取組を開始されています。



講習会の様子

現在、地区外のベテラン狩猟者から技術を学びながら、取組開始から4カ月間(H29年12月末まで)で、12頭ものイノシシを捕獲されています。

（町の担当者から一言）

地区が一体となり、自分達で進んで捕獲対策に取り組まれるようになったことは大変良かったと思います。

岳地区の取組は、捕獲対策の優良な事例と思われます。岳地区の取組を参考に、他の地区からも取組の意欲があったため、4地区に対し町から補助を行い、平成30年1月に、新たに6名がわな猟免許を取得されました。来年度に向け町全体での被害減少が期待されます。

最後に、ジビエについて一言

集落で協力して捕獲したイノシシは、 集落の皆さままで召し上がってはいかがでしょうか！？

捕獲したイノシシは、通常、きちんと埋却していただくこととなりますが、
せっかく皆さまで捕獲したのですから、皆さまで召し上がってみるというこ
とをご検討されてみてはいかがでしょうか！？

「イノシシって美味しいの？」と思われる方もいらっしゃると思いますので、
よろしければ、イノシシの料理や肉をご提供されている下記の店舗などで一
度召し上がってみてください。美味しいですよ～

店名	住所	主なメニュー	問合せ先	備考
Grill Dining deer	佐賀市 大財1-4-8	・イノシシ肉 モモ肉のハム 850円 ・イノシシ肉 ロース肉のグリル 950円 ・イノシシ肉 スペアリブのロースト 950円	0952-97-5922	定休日 毎週月曜日 イノシシ肉は県内で捕獲されたものを使用。
ジビエ料理 ししや	唐津市 和多田大土井14-37	・イノシシ焼肉 1,100円 ・ぼたん鍋 1,550円 ・イノシシしゃぶしゃぶ 1,550円 ・イノシシすきやき鍋 1,550円 ・イノシシのタタキ 1,000円	0955-74-7733	定休日 毎週月曜日 イノシシ肉は唐津市で捕獲されたものを使用。
吉田みかん園	唐津市 和多田大土井14-56	・イノシシ肉ロース200g 1,050円 ・イノシシ肉モモ200g 850円 ・イノシシ肉バラ200g 850円 ・イノシシ肉ハンバーグ2個入 450円 ・イノシシ肉ロース・モモ1.2kg 5,000円	0955-72-5005	ヤフーショッピングにて販売(ストア名: 吉田みかん園)。 https://store.shopping.yahoo.co.jp/yanemikan/
ジビエ逢地	唐津市相知町 中山4526-2	・猪肉セット 2,000円/kg ・猪のウインナー(3本約100g) 450円/袋 ・猪のフランク(2本入約100g) 450円/袋 ・猪の竜田揚げ(200入り) 600円/袋	0955-62-2719	猪肉は全て相知産。

今後、「捕獲したイノシシを、集落のみんなで食べたい」と思われるようでしたら、まずは、関係機関へご相談ください。一つ一つステップアップしていくことがありますので、一緒に取り組んでいきましょう。

次ページに、捕獲班に取り組まれている「石室集落」において、イノシシを食肉利用している事例を載せていますので、ご参考ください。

【石室集落の取組事例】

当集落では、捕獲したイノシシの食肉利用に積極的に取り組まれており、

- ・イノシシの止刺しから解体までの研修会を実施。
- ・イノシシを解体できる場所を確保し、肉を保管する冷凍庫やより美味しい料理を作るためのスライサーを共同で購入。
- ・女性部では、料理教室を定期的に開催し、当地区はもとより、他集落の総会や行事等において、イノシシ料理を振る舞っている。

などを行われています。



解体研修会の様子



女性部による料理教室

（市の担当者から一言）

イノシシの食肉利用を通して、解体研修や料理教室など、集落が一体となっ
ていろいろな取組をされていることは、非常に良いことだと思います。

イノシシの被害対策はとても大変なことですが、集落一体となった被害対
策や食肉利用の取組を今後も続けていただきたいと思いますし、そのための
支援等を行っていききたいと思います。

【お問い合わせ先】

○佐賀県農林水産部生産者支援課

〒840-8570 佐賀市城内 1-1-59 TEL:0952-25-7113 FAX:0952-25-7271

○お住まいの市役所・町役場

○お近くの県機関

農林事務所、農業改良普及センター、農業技術防除センター

大切な農作物は

集落みんなの協力による捕獲で鳥獣から守りましょう！

～“捕獲班”の取組について～

作成:佐賀県農林水産部生産者支援課